

第四十六回帝國議會
衆議院

職業紹介法中改正法律案外二件

委員會會議錄 速記(第二回)

會議

大正十二年三月五日午前十時四十二分開議

出席委員左ノ如シ

委員長 鈴木 鏡藏君
理事 武田德三郎君
宮崎三之助君 清瀬規矩雄君
栗林 五朗君 安原仁兵衛君
向井 倭雄君 中原德太郎君
出席政府委員左ノ如シ

本日ノ會議ニ上リタル議案左ノ如シ

工場法中改正法律案(政府提出)

工業労働者最低年齢法案(政府提出)

船員ノ最低年齢及健康證明書ニ關スル法律案(政府提出)

○鈴木委員長 是ヨリ開會致シマス、御諮リテ致ス事ガアリマスガ、外務省ノ政府委員ガ貴族院關係ニ於テ、明後日アタリカラ彼方ニ行カナケレバナラヌト申シテ居ラレマスカラ、成ベク先キニ本法ト條約關係ニ付テ質問ナサリタイ點ガアリマシタラ、ソレヲ最初ニ片付ケタイト思ヒマスカラ、左様御承知ヲ願ヒマス

○高田委員 本法ノ改正ノ中ニ三點點テ同ヒタイト思ヒマス、工場法改正中重要ナル點ハ、其適用セラレル工場ノ範圍ハ非常ニ擴張セラレタ點デアリマス、即チ第一條中ノ現行法ニ於テ當時十五人以上トアルヲ、十人以上ト改メラレタ點デアリマス、我國ノ工業ハ戰後著シク發展シテ參リマシテ、ソレガ爲ニ家族ノ所謂個人ノ經營ノ工業ニ増加シタノデアリマス、又是等ノ工業者ニ於テハ、家族ノ其使用人ヲ或ハ職工トシ、或ハ仕入及賣込其他ノ業務ニテ使用スル者ガ澤山アルノデアリマス、故ニ工業ノ發展ニ伴ヒ、自然ニ人員ノ増加シ來ルハ當然ナル事デアリマス、故ニ適用ノ範圍ヲ狭クスルノガ當然ト思ヒマス、茲ニ人員

職業紹介法中改正法律案
失業保險法案(安達謙藏君外六名提出)
労働組合法案(板野友造君提出)
出版取締法案
工場法中改正法律案
工業労働者最低年齢法案
船員ノ最低年齢及健康證明書ニ關スル法律案

ヲ十人ニ減少シタ理由ハ本員等ノ考ト異ナルヤウニ思ハレマス、此十人ニ減少シタル理由ニ付テ御説明ヲ願ヒマス

○塚本政府委員 御答致シマス、工場法ノ内容ヲ成ス所ノモノハ、其一部ハ工場ニ使用セラレル労働者ノ保護ニ在ルコトハ申スマデモアリマセヌ、又同時ニモウ一ツ労働者ノ扶助ニ關スル規定ノ適用、是等ノ點カラ廣ク多クノ工場ニ工場法ヲ適用スルコトガ、工業ノ進歩ヲ妨ゲナイ限度ニ於テ、工業労働者ヲ保護スル所以デアルト思フノデアリマス、今同其適用ノ範圍ヲ擴張シマシテ、十人ノ職工ヲ使用スル工場ニ適用スルコトニ致シマシタ所以ハ、矢張工場法ノ趣旨ヲ廣ク及ボシテ、多クノ労働者ヲ産業ノ發達ヲ妨ゲザル限度ニ於テ保護シタイト云フ精神ニ外ナリマセヌ、抑々現行工場法制定當初ニ於テ既ニ十五人ニ制限スルコトハ、工場法適用ノ範圍ガ狹過ギル、モウ少シ多クノ工場ニ適用シナケレバナラヌト云フ議論ガ可ナリ行レタノデアリマスガ、御承知ノ通り當時ハ工場法ノ他ノ眼目デアアル保護職工ノ夜業禁止ノ如キ規定ガ、主ナル工場ニ付テ十五年間猶豫期間ヲ與ヘラレテ居リ、又職工ノ就業時間ノ延長モ、可ナリ廣ク例外ヲ認メラレテ居リマシタヤウナ次第デ、既ニ夜業禁止、或ハ就業時間ニ付キ大ナル例外ガ認メラレタ位ナラバ、即チ本則ガ直ニ適用サレナイ位ナラバ、同様ニ工場法適用ノ範圍ヲ十五人位ニ上シテ狭クシタ方ガ宜シイ、ソレト權衡ヲ得ル爲ニ於テモ、十人以上ノ工場ニ適用スルコトハ酷デアルト云フ理由ノ下ニ、遂ニ十五人ニ決定シタノデアリマス、所ガ段々時勢モ變テ來マスシ、何ヤ其點ニ於テモ夜業禁止、或ハ就業時間ニ付テモ其例外ヲ殆ド制限シマシテ、本則ノ方ニ戻サウトシテ居ル本案デアリマスカラ、其點カラ申シマシテモ、權衡上十人ニ下ゲルコトガ適當デアルト云フ論ニナルノデアリマス、殊ニ又國際労働會議ニ於キマシテモ此點ハ十人ニ下ゲルコトニ致シテ、日本ノ工場法ヲ改正シタイト云フコトヲ申シテ居ル關係モアリマスシ、旁々此度彼様ニ改正致シタ譯デアリマス

○高田委員 只今ノ御言葉デ大體承知致シマシタケレドモ、本法ヲ改正致シマシテ、即チ人員減少ノ範圍ニ於テ本法案ヲ適用スルト致シマシタナラバ、之ヲ若シ徹底底ノニ行フコトニ致シマス、頗ル至難ナ事ガ起ルト思ハレルノデアリマス、何故ニ至難デアアルカト申シマシタナラバ、現在十人位ノ職工ヲ使用シツ、アルモノハ當然小資本ノ者ニ限ラレテ居ルノデアリマスカラ、家屋ノ構造及衛生ノ設備學齡兒童ノ教育方法トカ、總テノ形式ヲ具備シナケレバナラヌノデアリマス、是等ノ外觀ノ設備ハ十人位ノ工場ニ於テハ、決シテ收支引合フモノデハナイト思フノデアリマス、又工場法ニ人員ヲ制限セラレ、ノ一ツハ、人員ノ多數ナル場合ハ、一般ノ職工ニ工場主トシテ能ク目ガ届カナイ、斯様ナ關係カラ此工場法ヲ設ケルノデアリマスケレドモ、少數ノ工場ニ在リマシテハ、大概ハ家族ノ總テノ職工ノ面倒ヲ見、又職工募集其他ニ關シマシテモ、緣故ノニ之ヲ募集シテ、職工ト工場主トノ間ノ圓滿ナモノガ多イノデアリマス、然ルニ本案改正ヲ適用セラレ、場合ハ、多クハ形式ノニ流レテ、是等ノ小資本ノ小サイ家族ノ工場ノ被ル打擊ト云フモノハ、頗ル多イト思ハレルノデアリマス、故ニ是等外觀ノ形式ヲ具備スルコトガ出來ナイ爲ニ、工場ヲ閉鎖シ、或ハ營業ヲ休ムト云フヤウナモノガ、澤山出來ルト云フ憂ガ無イトモ限リマセヌ、是等ニ關シマシテ、政府ハ特別ナル取扱、即チ寛大ナル方法ヲ講ズル御考ガアリマスカドウカ此點ヲ一寸伺ヒタイ

○河原田政府委員 此適用範圍ヲ擴張致シマシタ理由ニ付ギマシテハ、先程上官ヨリ御答ラシタ次第デゴザイマスガ、此産業ト労働者保護トノ關係ニ付キマシテハ、ハハ餘程深密ナル考慮ヲ要シマシテ、實ハ大ニ苦心ヲ致シマシタヤウナ次第デゴザイマス、即チ労働者ノ保護ニ急ナルノ餘リ、或ハ産業ノ助長ニ關係ヲ及ボスト云フコトモアリマスガ、今日労働者ノ保護ト云フコトハ、一面ニ於テドウシテモヤッテ行カナケレバナラヌノデアリマスカラ、労働者ノ保護ヲ厚クシ、而モ産業ニ影響ヲ及ボサヌコトガ最も必要デアルト考ヘマス、ソレデ先程上官ヨリ御答ニナリマシタ通り、實ハ工場法制定當時ハ、十人以上ノ職工ヲ使用スル工場ニ適用スルコト云フコトデアッタノデアリマス、併シハ當時ノ事情ニ依テ十五人ト云フコトニナリマシタガ、之ヲ外國ノ事例ニ徵シマス、英國ノ如キハ別ニ使用スル職工ノ數ヲ標準ニ置カナイデ、工場法ヲ適用シテ各種ノ命令ヲ下シテ居ル、ソレカラ此職工ノ數ヲ標準ニ致シマス所デモ、先ヅ大體

十人位ノ所ガ多イデアリマス、十人位ノ程度デアリマスナラバ、織物工場等ニ於テハ、力織機ヲ二十臺位使ヒマス工場ナレバ、大體ニ於テ十人以上ノ職工ヲ使ヒマスカラ、先ヅ工場ノ體裁ヲ成シテ居ルガ、十人以下ノモノハ、先ヅ手工及家内工業ノ範圍ニ屬スルコト云フ、斯ウ云フ風ナ大體把テ區別ニナツテ居ル、ソレデ産業ノ發達上ノ影響ニ付テ、實ハ工場法制定當時、斯ノ如キ嚴密ナル規則ヲ十人以上ノ各種工場ニ適用スルコト、産業ヲ妨害スルノ結果ヲ來シテ、萎微不振ヲ來シハシナイカト云フ處方一部ニアリマス、適用後ハ却テ勞働狀態、産業方法等ニ改善ガ加ヘラレテ、勞働力ノ保全其他ニ、却テ其以前ヨリ好イ結果ヲ及ボシタヤウニ認定ガ出來ルノデアリマス、デアリマスカラ此適用範圍ヲ擴張スルコト云フコトハ、之ニ依テ勞働者ノ保護ヲ厚クスルコト云フ上カラ、却テ好イ結果ヲ及ボシハシナイカト云フ風ニモ考ヘラレルノデアリマス、一面勞働者保護ノ點ダケカラ申シマスレバ、一體カラ言ヘバ使ハレテ居ル勞働者ノ數ノ如何ニ依ツテ、工場法ノ恩惠ヲ勞働者ガ受ケルカドウカト云フコトガ決マルコト云フコトハ、理論カラ云フテ甚ダ不合理ト思フノデアリマス、即チ十五人以上ノ職工ヲ使フテ居ル工場ニ働イテ居ル職工ハ恩惠ヲ受ケルケレドモ、其以下ノ職工數シカ無イ工場ハ屬シテ居ル勞働者ハ、餘リ恩惠ヲ受ケヌト云フコトハ、是ハ勞働者保護ノ立場カラ言クト多少不合理ノ點ガアリハシナイカト思フノデアリマス、又一面ニ於テ産業ノ方面ヲ考慮シタ結果今日ノ狀況ニ於テハ、使用シテ居ル職工ノ數ニ依テ大體標準ヲ定メルコト云フコトハ、是ハ已ムヲ得ナイ事デハナイカト思ヒマス、ソレデ十五人以上ノ工場ニ、此工場法適用上緩嚴ノ差ガアルカト云フヤウナ御尋テゴザイマスガ、先ヅ大體ニ於キマシテハ、其儘適用セラル、ト斯ウ見ナケレバナラヌカト思ヒマス、併シ工場法ノ本體カラ見マス所ノ、本體ノ一部ニナリマス所ノ現行工場法十三條ノ規定、即チ危害豫防衛生其他ノ事ニ付テ、必要ナル命令ヲ主務大臣カラ發スルコトガ出來ルノデアリマスガ、此施行規定ハマダ實施ニナツテ居ラスノデアリマス、是ハ目下調査研究中デアリマシテ、將來之ニ關スル施行規定ヲ出シタイト思ヒマスガ、其適用ニ付テハ十分ナ考慮ヲ加ヘナケレバナラヌコト、思フテ居リマスガ、工場法自體ノ適用ニ付テハ、勿論大シタ區別ハナイト謂ハナケレバナラヌコト、思ヒマス、即チ衛生上ノ關係トカ、或ハ子供ノ勞働時間ノ關係トカト云フヤウナ點ニ付テハ、勿論適用セラルモノト解釋致シマス

○高田委員 ソレカラ就業時間事デアリマスガ、是ハ産業上ニ最モ大ナル影響ヲ及ボシマスガ、此現行法ニ於テ十二時

間デアルノヲ、改正法ニ於テ十一時間トシ、即チ一時間ノ短縮デアリマス、我國ノ工業中最モ多ク職工ヲ使用致シマス工場ハ、製絲工場、紡績工場、織物工場等デアリマス、中ニモ製絲工場ハ夜間就業ヲ餘リシナイ爲メニ、相當ノ影響ヲ被ルモノト思フノデアリマス、又此就業時間中ノ但書ニ於テ迅速ニ腐敗シ又ハ變質スルノ虞アル原料、又ハ材料ノ損失ヲ防ク爲メ必要ナル場合ニ於テハ、繼續四月以上ニ亘ラズ、且ツ一箇月ニ七日ヲ超エザル範圍ニ於テ、就業セシメテモ宜シイト云フ項目ガアリマスケレドモ、御承知ノ通り製絲工場ニ於テハ、所謂生繭季節即チ六月ヨリ九月マデハ、全部此條項ニ當嵌ルノデアリマス、故ニ今迄ハ此六月ヨリ九月マデノ期間ハ、製絲工場ニ於キマシテハ特別ニ時間ノ延長ヲ許サレマシテ、多分十四時間ノ就業ヲ爲サシメタコト、思フテ居リマス、然ルニ本改正案ニ依リマスルト一時間縮ムラレタ共爲ニ、特別ニ一時間ヲ延長シテモ、十二時間ヨリ職工ヲ使用スルコトガ出來ナイト思フノデアリマス、是ニ於テ此短縮ニ依ル影響ハ、頗ル製絲家ニ取ツテハ重大ト思フノデアリマス、是等ノ事ニ付テ政府ハ、製絲工場ニ對シテ特別ノ規定ヲ設ケル御考ガアリマスカ伺ヒタイ

○河原田政府委員 勞働時間ノ短縮ニ付キマシテハ、理想カラ申シマスレバ、勞働保護ノ立場カラ見レバ、成ベク短時間ノ方ガ宜イコトハ、是ハ申シマデモナイ事ト存ジマス、若干ノ統計ニ徴スルト勞働時間短縮ノ結果、勞働者及子供ノ健康ニ好影響ヲ及ボシタイト云フ例ガゴザイマスカラ、御入用デアレバ後デ申上ゲマス、併シ又一面ニ於テハ勞働時間ト産業トノ關係、即チ生産率トノ關係モ考慮ニ置カナケレバナラヌコト、大體一時間位ノ短縮ナラバ、寧ロ能率ヲ或ル程度マデ増進スルコトモ減ラスコトナク、一面ニ於テ却テ勞働者ノ健康ヲ増進シ、一面ニ於テ能率ノ方ニ好影響ヲ及ボスデアラウト云フ見込ノ下ニ、現行法ヨリ一時間短縮シタヤウナ次第デアリマス、隨テ現行法ニ比スレバ、此製絲工業等ニ於キマシテ、本法第七條ノ例外規定ノ適用ヲ受ケル場合ニ於テ、矢張一時間ダケハ短縮サレルコト云フ結果ニ相成ルノデアリマス、尙ホ御參考マデニ申上ゲマス、現行法改正ニ付キマシテ、關係ノ深い團體ニ諮問致シタノデアリマスガ、蠶絲同業組合ノ答申ニ於キマシテモ、大體是デ宜イカラヤッテ行カウト云フヤウナ答申ガ出テ居リマス、一時間ノ短縮デアレバ現在ノ生産ニ大シタ影響ヲ及ボサズシテ、寧ロ地方ニ依ツテハ能率ヲ上ゲルコトニ依ツテ生産ヲ増シテ行ク、即チ一面ニ於テ勞働者ノ保護ヲ増スモノデアルカラ、賛成シテ然ルベシト云フ意見ニ基イタコト、推察致サレマスガ、大體ソレデヤッテ行カウト云フ答申ガ出テ居ルヤウナ次第デアリマス、御參考マデニ申上ゲマス

○高田委員 只今政府委員ノ御説明ニ依リマス、此時間ノ短縮ハ職工ノ保護ヲスルガ爲デアルト云フコトニ私ハ受取りマシテ、是等ニ付テ政府ノ考ト吾々ノ考ガ、或ハ違フテ居リハシナイカト云フ點ニ付テ伺ヒタイノデアリマス、我國ニ於ケル職工使用方法ニ關シマシテハ、此使用料ノ支拂方針ガ、給料制度ニ依ルモノト、又賃銀制度ニ依ルモノトノ二ツガアリマスケレドモ、其大部分ハ賃銀制度ニ依ルモノガ多イデアリマス、故ニ此賃銀ノ支拂方法ハ、其職工ノ製造シタル製品ノ優劣ト、又製造物品ノ點數ニ依ツテ、之ニ一定ノ率ヲ以テ賃銀ヲ課スルノデアリマス、故ニ時間ノ短縮セラル、場合ニハ、現在ヨリモ其職工各自ノ製造力、即チ製造能率ガ減ツテ來ルノデアリマス、故ニ職工ノ收入ガ時間ノ短縮ダケヲシテ少ナクナルノデアリマス、又職工ガ現在同様ノ收入ヲ得ント欲スレバ、ドウシテモ工場主ニ向ヒ、或ハ會社ニ向ツテ其賃銀ノ點數ニ賦課スル割合ヲ上ゲテ貰ハナケレバ、現在ノ收入ヲ得ルコトガ出來ナイコトニナルノデアリマス、故ニ此改正法ニ依リマシテ工場主ガ其點數ニ依ル賃銀ノ値上ラスコト云フコトハ、絕對ニ不可能ナ事ト思フノデアリマス、故ニ本案ノ改正ハ職工ノ保護トナラズシテ、餘リ職工ハ歎キナイコト、私ハ思フノデアリマス、此點ニ政府ノ御考ガ及ボシテ居ルヤウナヤ伺ヒタイノデアリマス

○河原田政府委員 勞働時間短縮ノ結果、却テ勞働者ノ保護ニナラズデハナイカト云フ御尋デアリマシタガ、勞働者ノ勞働ト賃銀トノ關係ハ、是ハ餘程ムヅカシイ關係ガアルノデアリマスガ、假ニ先ヅ賃銀ノ問題ヲ離レテ見マシテモ、一面勞働者ノ保護、並ニ國家全體及現在將來ノ産業ト云フ方面カラ考ヘマシテ、勞働者ノ健康ヲ保持シ、而シテ其生産能力ヲ將來マデ維持スルコト云フ爲ニハ、保健ノ上カラ見レバ餘リ長ク勞働セシムルコト云フコトハ、是ハ考ヘナケレバナラヌト思ヒマス、即チ個人及國家ノ立場カラ、適當ナル考慮ヲ加ヘルコト云フコトハ極メテ必要ト思ヒマス、而シテ賃銀トノ關係ニ付テ申上ゲマス、勞働者ノ勞働時間ノ短縮ノ結果生産ヲ増シテ行クト云フコトハ、是ハ如何程マデ時間ヲ短縮スルカト云フ其程度ニ依ルコトデアリマス、從來調査致シマシタ所ニ依リマス、製絲業ニ付テ申シマスレバ、三十分間勞働時間ヲ短縮スルコト、却テ生産能率ガ上ツテ行クト云フ結果ヲ現シテ居ル所ガ多イヤウニ思ヒマス、設備ノ非常ニ良イ工場ニナリマス、一時間半位時間ヲ短縮シテモ、却テ生産ガ増シタト云フヤウナ實例デアリマスケレドモ、先ヅ一時間位ノ短縮デアレバ、生産ガ減タ所モアリマスガ増シタ所モアルト云フヤウナ次第デ、大體ニ於テ能率増進ノ上ニ於テ好影響ヲ及ボスデハナイカ、時間短縮ノ爲ニ勞働者ノ注意力ナリ健康ナリ長クナルコト云

フコトデアレバ、隨テ生産力モ多クナルシ、又其質モ良クナルト云フ關係デ、工率ニハ大シク影響ハ及ボサズ、寧ろ好影響ヲ及ボスデアラウト云フ風ニ見受ケラレノデアリマス、而シテ國家トシテ斯ウ云フ規定ヲ設ケレバ是ガ利戟トナツテ、一層好結果ヲ及ボシハセスカト考ヘルノデアリマス、デアリマスカラ生産力ガ多クナリ、其質ガ良クナレバ、自然ト事業自體ノ繁榮ヲ來シ、隨テ勞働者ノ收入ニモ影響ヲ及ボサズニ、寧ろ却テ其收入ヲ増サシムルト云フコトモアリハシナイカト存ジマス、一時間位ノ短縮ハ勞働者ノ保健ノ上ニモ、實銀ノ關係ニ於テモ、將來ノ國家ノ産業ノ上カラモ、適當ノ程度デアラウト云フ考ノ下ニ、改正案ガ提案サレタヤウニ存ジマス

○矢野委員 本案ノ重要ナコトハ申スマデモナク、我國工業ノ上ニ非常ナ影響ヲ及ボスモノデアリマス、政府ニ於テ本案ヲ決定ナサツタ後ニ、本案ノ要領ヲ當業者ニ御諮問ニナツタコトヲ承知シテ居リマス、然ルニ其御諮問タルヤ、通リ一遍ノ御諮問ノ如ク聞エルヤウナ點ガアツタ、ト云フノハ參考書等ガ幾ラモ無カッタヤウニ承知シテ居ル、殊ニ年齡其他ニ關スル改正ガ、勞働會議ニ於ケル條約ノ内容ニ依ツテシタト云フ御説明ガ無カッタ、唯、改正ノ要點ノミ書イデアッタヤウニ思フ、即チ當業者ニ諮問スルニ付十分ナル參考資料ガ無カッタ、此點ガ甚ダ不親切デアルト云フ評判ガ高シ、ソレカラ政府ハ何時頃本案ノ決定ヲ爲サツタカ知レマセシガ、其諮問ニ對スル回答ハ頗ル短イ期間ニ返事ヲセヨト云フコトデ、時日ガ甚ダ切迫シテ居タ爲ニ、咄嗟ノ間ニ回答シテシマッタト云フコトモアル、熟考ノ餘地ヲ與ヘナカッタト云フ非難ガアルノデアリマス、ソレ故ニ私ハ攻撃スル意味デアリマセス、斯ノ如キ事ヲ當業者ニ諮問ナサルト云フコトハ洵ニ歡迎スル所デアルガ、餘リニ不親切デアル、熟考ノ餘地ヲ與ヘナカッタト云フ非難ガアル、此點ニ於テ果シテサウデアリマシタカドウデアリマシタカ、先ヅソレヲ御尋致シタイ

○塚本政府委員 工場法中改正法律案ヲ當議會ニ提案スルニ先立チマシテ、全國ノ商業會議所、或ハ紡績聯合會、東京工業俱樂部、大阪工業會其他ニ、ソレ／＼當時內務省社會局ニ於テ立案致シマシタモノヲ參考ノ爲ニ送付シテ、工場法改正ニ付テ此案ナリ其他ノ意見ガアルナラバ、申出デラレルヤウニ希望スルト云フコトヲ照會致シマシタ、其時ハ私ノ記憶ニ依リマス、昨年十二月デアッタと思ヒマス、其後如何ニモ年末ト又年始ノ多忙ナ時デアリマシタ、又答申ノ折モ、一月半バ頃マデニ若シ意見ガアルナラバ申出デラレタイト云フヤウナコトデ各團體ニ申上ゲタ、ソレハ如何ニモ短カッタハ申スモノ、此問題ハ随分久シイ間世間ノ論

議ニ上ツテ居ルコトデモアリマス、當業者ニ於テハ始終研究ヲ積マレテ居タ問題デモアリ、早晩解決ヲシナケレバナラスト云フコトハ朝野識者ノ間ニ盛ニ唱ヘラレテ居タ、故ニ割合ニ短イ期間デアルトハ申シマシテモ、十二月ニ出シテ一月ノ半バマデニ出ツコトデアリマシタカラ、其間ニ於テ平素ノ意見ヲ發表シテ下サルコトニハ差支ナイト信ジタノデアリマシタ、果シテ其期間内ニ相當ノ御意見ヲ申出デラレタ向モアリマシタ、尤モ其期限後ハ一切受附ケヌト云フモノデモアリマセスカラ、期限經過後ニ於テ、又追々意見ヲ申出デラレタ向モ少ナクナイノデアリマシタ、ソレ等ヲ私共一切承テ、本案ノ參考ニ致シテ居ルヤウナ譯デアリマス、又當時是等ノ諮問ニ當リマシテ、參考資料ガ比較的乏シカッタト云フコトハ、實ハ當時參考資料ヲ蒐集シテ、之ヲ印刷若クハ鐵筆等ニ認メル餘裕ガナカッタノデ、其參考書ノ乏シカッタト云フコトハ私共モ甚ダ遺憾ニ思フテ居リマシタケレドモ、洵ニ已ムヲ得ナカッタノデアリマス

○矢野委員 是ハ當業者ニハ重大ナル關係ヲ持ッテ居ル問題デアリマス、モウ少シ御深切ニ參考書モ御附ケテ願ヒタイ、期日モ與ヘテ貰ヒタイ、殊ニ條約ト如何ナル關係ガアルカト云フヤウナコトヲ御説明ヲナサツタ、非常ニ參考ニナツタと思ヒマス、既任ハ答メマセス、今後斯ウ云フ事ガアツタ場合ニハ、成ベク御深切ニ願ヒタイト云フ希望ヲ申上ゲテ置キマス、其回答モ紡績聯合會アリカラ出マシタモノハ、比較的高イカラノヤウニ聞イテ居リマス、其他色々アリマス、其内容ヲ一々承ルト云フコトハ煩雜デモアリマシタ、又ソレ程必要モナイと思ヒマス、其回答ノ大要ヲ承ルコトガ出來レバ結構ト思ヒマス、其當業者ノ回答ニ對シテ政府ハ如何ニ考慮シタカ、其當時出來テ居タ政府ノ原案ヲ、回答ヲ參考ニシテ多少デモ御變更ニナツテ居ル所ガアルカ否ヤ、其點ヲ御尋シタイ

○正木委員 今ノ矢野サンノ御質問ハ私モ同感デアル、就テハ一々此處デ承リマシテモ、一寸記憶ガムツカシイノデアリマス、カラ、回答書ノ寫ヲ拵ヘテ委員ニ御配リヲ願ヒタイ

○塚本政府委員 例ヘバ時間ノ點ニ付テハ賛成、又工場法適用ノ範圍ニ付テハ不賛成ト云フ風ニ、各項目ニ付テハ一覽表ニ出來テ居ルモノガアリマス、カラ、ソレヲ御手許ニ差上ゲルコトニ致シマス、ソレカラ各種團體カラノ答申ニ依ッテ政府ハ案ヲ多少更正シタ點ハアルカドウカト云フ御尋デアリマス、ガ、ソレハ一ツアリマス、只今提案ニナツテ居リマス、第四條中ノ改定ニ付テ、所謂深夜ノ時間ヲ午後十時カラ午前五時マデト云フコトニ對シテ、十一時迄就業セシムルコトヲ得ルト云フコトニ致シマシタノハ紡績聯合會デ決

議シマシタ其精神ヲ酌ミマシテ、或ハ他團體ノ決議ニモサウ云フコトガアリマシタガ、其精神ノ在ル所ヲ酌シテ、夜十一時マデハ尙ホ就業セシメテ宜イデヤナイカ、又サウシテ貰フタ方宜イト云フ精神ガ見エマシタカラ、例外トシテ行政官廳ノ許可ヲ受ケタトキニハ、夜十一時迄ヤツテ宜イシト云フコトニシタノデ、是ガ答申ニ依テ最初ノ案ニ變更ヲ來シタ點デアリマス

○矢野委員 了解致シマシタ、此工場法ノ改正案ニ付キマシテ、十名ニ人員ヲ下ゲタト云フコトハ、十五歳ヲ十六歳ニ上シタト云フコトハ、一時間ト云フコトハ、紡績聯合會ガ賛成シタ爲ニ問題ニナツテ居ラスヤウニ聞イテ居リマス、年齡ヲ増シタト云フコトハ、人員ヲ下ゲタト云フコトニ付テハ、大體ニ於テハ大ニ進歩シタ案トシテ、私ハ當業者ガ之ヲ容レルコト、考ヘマスガ、唯、當業者ガ之ニ依ッテ最モ苦痛ヲ感ズルノハ、支那ニ對シテマアルト思フ、支那ハ工場法ト云フモノガアリマセスカラ、無制限ニ働イテ居ル、勞働賃ガ非常ニ安イ、是ガ非常ニ遠方デアアルナラバ兎ニ角、口ノ前ニ於テ非常ニ安イ、而モ其勞働力ガ頗ル豊富デアリマシタ、近頃紡績其他ノ工業ガ支那ニ於テ興リツ、アツテ、寧ろ支那カラ日本ニ工業品ガ流込ミツ、アルト云フコトハ、諸君ノ御承知ノ通りデアリマス、ソレガ爲ニ日本ノ工業ガ近來ニ至ツテ、非常ニ脅威ヲ感ジテ居ルト云フコトモ御承知デアリマセウ、サウシテ一面ニ於テハ列國トノ勞働會議其他ノ結果非常ニ進歩シテ、衛生上其他種々ノ點ニ於テ、勞働者ヲ保護スルコト云フコトハ至極結構デアリマス、ガ、支那トノ關係上重大ナル脅威ヲ感ズル、此點ニ付テ政府ハ如何ニ御考ニナツテ居ルカ支那ノ勞働狀態ニ付テ本邦ノソレト比較シテ、政府ガ執ラレマシタ御方針御抱負ト云フヤウナモノノ、概略ヲ承リタイと思ヒマス

○塚本政府委員 洵ニ御尤ナ御質問デアリマシテ、當局ニ於キマシテモ此法案ノ編成ニ方リマシテ、最モ慎重ニ注意致シタ點デアリマス、御話ノ通り支那ニ於ケル紡績業ノ發達ト云フモノハ非常ニ著シイノデアリマシテ、近來非常ニ其工場數ニ於テモ、又纖維ニ於テモ増加シマシテ、我國ノ紡績業ハ、支那ノソレト如何ナル關係ヲ持ッテ行カト云フコトニ付テハ、當業者ト共ニ大ニ考ヘナケレバナラヌ事デアル、然ル所支那ニ於ケル紡績業ト云フモノハ、何レイ詳シイ表ニ依ッテ御示シテ御話シテ宜カラウト思ヒマス、大體ニ於テ太物ノ方ガ發達スル、細手ノ物ハ未ダ發達シナイデアリマス、カラシテ、太手ノ物ハ支那ニ於テハ漸次發達シテ居リ、又日本ノ紡績業者ガ支那ニ資本ヲ投ジテ工場ヲ經營スルニ方ツテモ、亦太手ノ物ヲ支那ニ於テヤルコトニシテ、細イ物ハ日本ニ於テ繼續スル、斯ウ云フ方針デヤツタナラバ、日本ノ紡績

業ハ從來ノ勢ヲ落サズシテ、矢張繼續シテ行クコトカ出來
ヤウ、大體ニ於テ當業者ノ方針モサウ云フ方ニ傾イテ居ル
ヤウニ私共ニハ見エル、日本ノ紡績業者又ハ紡績業ヲ將來
經營セシムル人デ、支那ニ於テ經營セシムル人ガ左様
ナ方針ヲ以テ行ッテ、ナウシテ日本ノ紡績業ノ關係ヲ圓
滿ニ兩立サセテ行クコト云フ方針デヤッテ居ルカラ、工場法
改正ニ依ッテ益々、労働時間、又ハ保護職工ノ年齡等ニ於
テ、工場法紡績業ナドニ對シテ嚴密ナル取締ヲ加ヘテ、サ
ウシテ産業上ニ不利益ヲ被ルヤウナ形ニナリマスケレドモ
而シテ一面ニ於テ支那ハ工場法ノ如キ取締ヲ受ケナイノデ
アリマスケレドモ、今申上ゲマシタヤウナ方針デ行クナラ
バ、細手ノ物ハ申スマデモナク、非常ニ熱練ヲ要スルノデ
太物ヨリハ比較的熱練ヲ要スル、其熱練ヲ要スル物ハ、
時間及年齡等斯様ナ改正案ノ如キ法律ノ適用ヲ受ケマシ
モ、其能率ヲ害スルコトナク、却テ其能率ヲ増シテ行ク上ニ
利益ガアルノデアリマスカラ、將來ノ日本ノ紡績業ガ右申
上ゲマシタヤウニ、進ンデ行クモノト致シマスレバ、自然此
工場法ノ改正ニ依ッテ影響ヲ受クルコトナク、寧ロ益々能率
ノ増進、産業ノ發達ニ資スルデアラウト云フ見込付ケテ
居リマス、尙ホ支那ノ紡績業ノ趨勢、又ハ支那ニ對スル我ガ
綿絲ノ輸出等ノ關係ハ、數字ニ依ッテ詳シイ御説明ヲ申上
ゲタイト思ヒマス

○中原委員 保護労働者就業制限、又ハ現行法ガ認メタル
例外規定適用ノ中デ、十五歳未満ノ者及女子ヲシテ、午後十
時ヨリ午前四時ニ至ルマデノ間ニ於テ就業セシムルコトヲ
得ズ、但シ本法施行後ハ、十四歳未満ノ者及二十歳未満ノ女
子ヲシテ夜間ノ就業ヲセシムルコトハ、行政官廳ノ許可ヲ
得テ就業セシムルコトニナッテ居リマス、ソレカラ又第八條
ノ二項ノ改正案ハ其例外同様、十六歳未満ノ女子ヲ無制限
ニ許可サレルコトニナッテ居ルヤウデアリマスガ、是ダケノ
事ノ中デ、現行法ハ大正二十年マデ二十歳未満ノ女子ノ深
夜作業ヲ許スノデアリマスガ、改正案ハ許可ダケデアレバ、
十六歳以上ノ者ハ永久ニ之ヲ許スコトニナッテ居リマスガ、
此變更ニ付テ一寸理由ガ少々不明デアリマスカラ之ヲ伺ヒ
タイ

○河原田政府委員 只今ノ御尋ノ現行法ノ第五條ノ「本法
施行十五年後ハ十四歳未満及二十歳未満ノ女子ヲシテ」ト
アリマスノガ、年度ノ改正ニ於キマシテ十六歳以上ノ女
子ト云フコトニ變ヘマシタコトハ、ドウ云フ譯デアアルカト
云フコト、思ヒマスガ、此點ニ付キマシテハ、是ハ第一回ノ
労働總會ニ於キマシテ、此夜業ニ關スル女子小兒ノ條約案
ノ中ニ、詰リドウシテモ夜業ヲ認メナケレバナラヌ仕事ノ
アル場合ヲ認メテ居リマス、御承知ノ通り腐敗シ易イ物ヲ

取扱フ場合トカ、不可抗力ニ作業ヲヤラネバナラヌト云フ
場合ハ、夜業ヲシテモ宜イト云フコトニナッテ居リマス、而
シテ現行法ハ十四歳以上ノ女子ト斯ウ云フコトニナッテ居
リマスガ、今回ノ改正案ニ於テハ、一面ニ條約案ノ精神ヲ採
リマシテ、現在ハ比較的第五條ニ於テ夜業ヲ爲シ得ル特別
ノ場合ヲ認メテ居リマスガ、ソレヲ止メマシテ、即チ現行法
第五條ノ業務ノ種類ヲ舉ゲテ、實際夜業ノ必要ナル業務ニ
關聯シテ居ル限リハ、夜業ガ出來ルコトニナッテ居リマスガ、
是デハ實際ニ必要デナイ場合デモ出來マスカラ、改メテ實
際必要ナル場合ヲ第八條ノ第二項ノ改正ニ依リマシテ、假
令業務ノ種類如何ヲ問ハズ、實際夜業ヲシナケレバナラヌ
場合ダケヲ限ッテ、夜業ヲ認メル範圍ヲ狭ク致シマシテ、ソ
レカラ一面年齡ノ點ハ、條約ノ精神ヲ採ッテ十六歳以上ノ女
子トシタ次第デアリマス

○中原委員 ソレデ私ハ十分ニ斯ウ云フ事ハ専門家デナイ
カラ詳シクハ存ジマセヌガ、夜業ト云フハ實際問題トシ
テ、例ヘバ紡績工場ニ夜業ヲ認メテ居リマス、吾々ノ所謂保
健衛生ノ上カラハ、夜業ニ付テハ餘程當局ノ考慮ヲ煩シタ
イト云フ希望ヲ有シテ居リマス、元來夜業ハ衛生上非常ニ
有害デアルコトハ御承知ノ通りデアリマス、事實問題トシ
テハ一週間夜業ヲ致シマシタ者ハ、體量ハ二百目減ジマス、
更ニ交代ニナリマシタ者ハ、就業ニシマスルト、一週間ノ後
ニハ二百目體量ガ回復致シマス、サウスルト差引二週間目ニ
於テ二百目ノ體量ガ減ズル、斯ノ如ク非常ニ身體ニ向テ害毒
ヲ與フルト云フコトハ、吾々ノ立場カラ調査ヲ致シタ結果
明ニナッテ居リマス、ソレデアリマスカラ夜業ノ事ヲ吾々ノ
方カラ申シマスルト、産業ノ振興ヲ妨害スルヤウニ聞エル
ガ、決シテソレハサウ云フ意味デハゴザイマセヌ、殊ニ事實
上ニ於テ、職工デナクテモ、學校ヲ卒業シタ後ニ於テ其者ガ
夜業ニ從事スルト、暫クニシテ悴レルト云フヤウナ事實ガ
アリマス、又彼ノ紡績女工ノ如キハ大抵途中デ逃走スル、ソ
レヲ巡査ガ捕ヘテ戻ス、其巡査ノ話ヲ聽キマスト如何ニモ
可哀サウデ、顔色ハ憔悴シテ居ルノデ氣ノ毒デアアルガ、現
行法ニ依ッテサウ云フ場合ニ捕ヘテ戻サナケレバナラヌト、
其局ニ當ッテ居ル警察官吏ガ話ヲシテ居リマス、サウ云フヤ
ウナ事デアリマスカラ、私ハ夜業ニ付キマシテハ重大ナル
人道ノ問題トシテ、又産業ノ振興ノ上カラモ、無論國家ノ
發展ヲ期スル上ニ於キマシテモ、重要ナルコトハ申スマデ
モナイ、是ハ何トカシテ行政官デスカ、何方其方ノ許可ヲ得
テ、何トカ其邊ニ向ッテ手心ノ出來ナイモノデアリマスガ、
衛生ト云フ立場カラ夜業ニ付キマシテハ、政府ハドウ云フ
考ヲ持ッテ居リマスカ伺ヒタイト思ヒマス

○河原田政府委員 保健衛生ノ立場カラハ御同感ノ事デゴ

ザイマス、政府トシテハ一刻モ早ク夜業ノ無イヤウニシタ
イト云フコトハ、非常ニ希望スル次第デアリマスガ、一面産
業ノ方面トシテ兎モ角モ今日ノ紡績ト云フモノハ重要ノ産
業ノ一ツトシテ、之ヲ急激ニ夜業ノ禁止ヲ實行スル設備
ノ擴張、労働者ノ補充ト云フモノガ整ヘマセヌノデ、隨テ非
常ニ生産率ヲ減少シテ行ク、其結果綿絲ノ値段ガ高クナリ、
消費者ニ影響スルコトモ考ヘナケレバナラヌ、又一面ハ之
ヲ直グニ實行スルト、現在使ッテ居ル女工ノ失業ト云フコト
ガ起リテ參リマスノデ、即チ極端ニ申シマスレバ設備ノ點
工ノ失業ト云フ點ヲ相當ニ考慮シマシテ、大體二年位ニス
ルノヲ相當ト認メマシタノデアリマス

○中原委員 私ハ度々申ス如ク素人デゴザイマスカラ能ク
分リマセヌガ、實際ノ問題トシテ、病者ノ七割八割ト云フモ
ノハ夜業ヲスル事ニ依ッテ起リノデアリマシテ、又一方ニハ
夜業ヲサセルト云フコトハ人道ノ重大ナル問題デアルカラ、
職工ハ當分已ムヲ得ナイトシテモ、將來ハ永久ニ禁止スル
方針ヲ執ルコトガ人道ノ上相當ト思ヒマス、是ハ産業ノ發達
上カラ言ヒマシテモ、唯、當業者ノ利益ヲ少シクナルスル
ニ止ッテ、十分ノ目的ヲ達スルト私ハ信ジマスガ、政府ノ御
意見ハ如何デゴザイマス

○河原田政府委員 夜業ヲ直ニ禁止致シマス、單ニ當業
者ノ所謂資本家ノ利益ヲ減ズルバカリデナク、其爲ニ生産ガ
減リマスカラ、隨テ一般デ需用致シマス木綿物ノ價格ニモ
影響ヲ及ボシマセヌカ、サウシマス、一般消費者ノ爲モ非
常ナル不利益ガ生ズル虞ガゴザイマスカラ、少クトモ現在
ノ生産能率ニ影響ヲ及ボサヌヤウナ設備ヲ爲サシムル爲ニ
ハ、相當ノ期間ヲ置クコトガ必要デハナイカト思ヒマス、今
日直ニ禁止シマス、工場ヲ擴張スルトカ、外國ニ註文ヲ出
シテ機械ヲ買フトカ、敷地ヲ擴張スルトカ、寄宿舎モ造ラナ
ケレバナラヌト云フヤウナコトヲ念頭ニ置キマス、矢張
相當ノ期間ヲ置クコトガ必要デハナイカト考ヘマス、直ニ
夜業ヲ禁止シマス、今迄使ハレテ居ル女工マデモ、職首シ
ナケレバナラヌト云フヤウナ事モ起ル虞ガアリマスノデ、
三年ノ猶豫ヲ置イテ、三年後ニハ全然夜業ヲ禁止スルト云
フ積リデゴザイマス

○高田委員 本案ノ改正ニ付キマシテハ、ドウモ總テノ調
査ガ完全ニ行ハレテ居ラスヤウニ思ハレルノデアリマス、
唯、理想ト労働會議ヲ本位トシテ提案シタヤウニ私ハ思ハ
レルノデアリマス、此時間短縮シタ爲ニ、生産能率ガ増加ス
ルト云フヤウナ政府ノ御答辯デアリマシタケレドモ、吾々
モ幾多ノ工業會社ニ關係シテ居リマスケレドモ、時間ヲ短
縮シタ爲ニ生産能率ガ増スト云フコトハ、只今中原君ガ御尋
ヲシマシタ中ニ、夜業ニ從事スレバ一週間二百ムトカ三百

欠トカ目方減ル、三週間ヤツナラバ六百九減ル、一箇月
ヤツナラバ五貫目減ルト云フヤウナ率ト同ジヤウニ、時間
ヲ一時間短縮スレバ生産能率ガ殖エルナラバ、二時間短縮
シタナラバ、尙ホ生産能率ガ殖エルグラウト云フヤウナ理
想論ニ流レテ、所謂是等ニ對シテハ殆ド理想デアッテ實際ノ
調査ハ行届イテ居ラナイヤウニ思ハレハ、ハレノデアリマ
ス、是等ニ付キマシテ實際ノ御調査ガアリマシタナラバ、ソ
レヲ私ハ知リタイト思フノデアリマス、唯、是ガ理想ノ爲
ニ改正セラレルト云フコトニ付テハ、全ク私ハ感心シナイ
ノデアリマス、故ニ是等ニ付テ實際ノ調査ガ行届イテ居リ
マシタナラバ、調査ノ率等ヲ知リタイト思ヒマスガ、ソレ等
ノ調査ガシテアリマスカドウカ、御伺シタイノデアリマス
○河原田政府委員 此時間ト能率トノ關係ハ餘程ムツカシ
イ問題デアリマシテ、其工場ノ設備ニモ依リマス、職工ノ
訓練ニモ依ルト云フヤウナ點カラ申シマシテ、非常ニ調査
ハ困難デアリマスガ、只今マデ出來テ居ル材料ガ澤山アリ
マスカラ、表ニデモシテ御目ニ掛ケタイト存シマス、唯、或
ル程度マデ、大體ノ見込ニ於テ差支ナク、寧ロ場合ニ依ルト
能率ヲ増進スルト云フヤウナ狀況デアリマスレバ、ソレヲ
實行シタカハ、却テ好イ結果ヲ及ボスノデハナイカト思
フノデアリマス、工場法ノ制定當時ハ、今日ノ狀況トハ餘程
事情ガ違フテ居リマシテ、隨分是デハ産業ニ影響ヲ及ボシハ
セスカト云フ議論モアリマシタガ、ソレヲ實行シマスレバ、
却テ日本ノ産業ヲ規律立タシメ、労働者ノ労働ヲ秩序立タ
シテ、好イ影響ヲ及ボシタヤウニ思フノデアリマシテ、改正
案ノ如キ程度ニ於キマシテハ、寧ロ惡イ影響ヨリモ、好イ結
果ヲ及ボシハセスカト云フコトモ考ヘテ居ル次第デゴザイ
マス

○正木委員 此度ノ改正案ノ根本ニナリマシタ條約ハドン
ナノデスカ、此千九百十九年ト云フノデスカ

○山川政府委員 工場法中改正法律案ノ根柢ニナッテ居ル
條約案ハ、第一回ノ労働總會ニ於テ採擇セラレタモノ、中
デ「工業ノ起業ニ於ケル労働時間ヲ一日八時間且ツ一週四
十八時間ニ制限スル條約案」ヲレカラ「産前産後ニ於ケル婦
人使用ニ關スル條約案」夜間ニ於ケル婦人使用ニ關スル條
約案「工業ニ於テ使用セラル、年少者ノ夜業ニ關スル條約
案」此四ツニ關聯シテ居ルノデアリマス、併シ此工場法中改
正法律案ノ方ハ、法律案ノ規定ニスッカリ持ッテ來タノデア
リマセス、今舉ゲマシタ四ツノ條約案ハ、日本ノ現在ノ狀態
ニ於テ、直ニソレヲ批准シ實行スルコトハ適當デナイト云
フノデ、條約案ハ批准致シマセス、成ベク日本ノ國情ニ照シ
テ、差支無イ限リハ條約案ニ近イ主義ヲ採用シヤウト云フ
コトデ、工場法中改正法律案ト云フモノガ出來上ッタノデア

リマス、ソレデ今申上ガマシタ四ツノ條約案ニ關聯ハシテ
居リマスケレドモ、條約案其モノトソツクリ同ジモノデハナ
イノデアリマス、ソレカラ今回提案ニナリマシタ工業労働
者最低年齡法案、是ハ第一回ノ労働總會デ採擇ニナリマシ
タ「工業ニ使用シ得ル兒童ノ最低年齡ヲ定ムル條約案」之ニ
關聯シテ居ルノデアリマス、此法案ハ今申上ガマシタ條約
案ヲソツクリ持ッテ來タノデアリマス、此條約案ハマダ批准
ニハナッテ居リマセスガ、内容ニ於テ批准シテ差支ナイト云
フコトニ考ヘテ居リマス、ソレデ豫メ先例ニ依ッテ此法案ヲ
提出シ、國內法ノ運用ヲ圓滿ニシテ置クト云フ趣意デ、條約
案ノ趣意ヲソツクリ持ッテ來テ居リマス、ソレカラ船員ノ最
低年齡及健康證明書ニ關スル法律案、是ハ第二回ノ労働總
會ニ於テ採擇ニナリマシタ「海上ニ使用シ得ル兒童ノ最低
年齡ニ關スル條約案」ソレカラ第三回ノ國際労働總會デ採
擇ニナリマシタ「海上ニ使用セラル、兒童及年少者ノ強制
體格検査ニ關スル條約案」此二ツノ條約案ニ關聯スルノデ
アリマス、ソレデ是モ條約案ノ趣意ガ、今日日本ニ於テ直ニ
採用シテ差支ナイト云フコトデ、此法律案ハ條約ノ趣意ソツ
クリ出テ居リマスデ、一昨日私ガ説明申上ゲマシタ時ニ、第
三回ノ總會ノ條約案ガ、マダ總テ採用ニ決シタモノガ無イ
ト云フヤウニ申上ゲナカバ、カト思ヒマスガ、若シサウデア
リマスレバ、其點ハ訂正致シマス、今申上ゲタ通りニ兒童ノ
體格検査ニ關スル條約ヲケハ、之ヲ採用シテ差支ナイト云
フノデ、今回ノ法律案ノ中ニ其趣意ガソツクリ入レデゴザイ
マス、サウ云フコトニナッテ居リマス

○正木委員 海上ニ關スル事ハ第二回ト第三回ト兩方ニ涉
テ居リマスガ、第二回ニモ何カ記録シタモノガアリマスレ
バソレヲ——ソコデ私ハ一ツ御尋フシタイ事ハ、第一回ノ
國際労働總會ニ於テ採擇國際條約案ト云フモノヲ見マス
ト第九條ニ於テ日本ヲ除外シテ居ル、其除外シテ居ル根本ハ
詳シクハ分リマセスケレドモ、十五人以上ヲ日本ハ十二人
トカ云フコトモアリマシタガ、年齡ノ事モ他ハ十六ニナッテ
居ルガ、日本ハ十五ト云フヤウニ除外ノ形ニナッテ居ル、其
時分ニ除外サレタ事ヲ今日此本案ニ依リマスレバ一般ノ
除外ノ國ト同様ノ法デ實行スルト云フ、此根本ハ何所ニア
ルカ、是ハ日本ガ印度ト同様ニ除外ヲ求メタノハ面白クナ
イ、日本ハ五大國ノ一ツデアルトカ何トカ言ヒナガラ、此工
業労働者ニサウ云フ劣等國ト云ヒマスカ何ト云ヒマスガ、
餘所ノ國ト違フ事ヲ求メタト云フコトハ、大分今日議論モ
聞イタコトモアル、然ルニ其時ニ日本ハ大變ニ主張シテ除
外ヲ設ケタ、其除外ヲ設ケタ趣意ニ反シテ今日之ヲ實行シ
ヤウト云フ、斯ウ云フ御方針ヲ採リマシタノハ、前方拙カ
タノデアアルカ後ガ拙カッタノカ、或ハ進歩シタト云フコトカ

進步シタトスレバ前ノ時分ニハドウ云フ積リデア、云フ事
ヲ除外ヲ求メタノデアアルカ、ソコヲ詳シク御説明ヲ願ヒタ
イ

○河原田政府委員 ソレハ斯ウ云フ風ナ關係ニナッテ居リ
マス、詰リ第一ノ適用工場ノ範圍ニ付キマシテハ、日本ハ現
在十五人以上ノ職工ヲ使用スル工場ニ工場法ヲ適用スルト
云フコトニナッテ居ルケレドモ、一例ヲ申上ゲマスレバ、時
間制ノ條約案ノ第九條ニ於テ「ハ」號デ「日本工場法令中其
ノ適用ヲ十五人以上ノ者ヲ使用スル場所ニ限ル」規定ハ十
人以上ノ者ヲ使用スル場所ニ該法令ヲ適用スルコトニ改メラ
ヘシト云フコトニナッテ居リマシテ、既ニ此時カラ十人以上
ノ職工ヲ使用スル工場ハ、工場法ヲ適用スルト云フコトニ
同意シテ居ルヤウナ次第デアリマス、隨テ此點ニ付キマシテ
ハ除外例ガ無イノデアリマス、ソレカラ年齡ノ問題デアリ
マスガ、是ハ年齡ニ關スル條約案ニ於キマシテハ、元來原則
ハ十八歳デアルト云フノヲ、特別ニ日本ガ人類其他ノ關係
カラ、日本ハ十六歳デ十分デアルト云フコトデ、十六歳ト云
フ除外例ヲ設ケラレタノデアリマス、併シ現行法ニ於キマ
シテハ十五歳ト云フコトニナッテ居リマスカラ、當時ノ條約
デ千九百二十五年迄ハ十五歳ト云フコトヲ認メル、其後ハ
十六歳ト云フコトニ直スト、斯ウ云フ風ニ條約案ノ文面ガ
ナッテ居リマスノデ、今回ノ改正ハ矢張其當時議決セラレマ
シタ條約案ノ趣旨ニ從ッテ居リマシテ、少シモ矛盾ハ無イノ
デアリマス

○正木委員 當時ニ除外ヲ求メタイノハ、ドレダケ求メタ
ノデアリマスガ

○河原田政府委員 除外ヲ求メマシタノハ第一ニ労働時間
ノ問題デアリマス、是ハ御承知ノ通り所謂八時間労働ヲ實
行スルコトニナッテ居リマス、是ハ成年工デアルト保護職工
デアルトヲ問ハズ、一日八時間一週四十八時間ノ原則ヲ行
フ、之ニ對シテ日本ハ保護職工ニ付キマシテ八時間ノ原則
ニ從フ、併シ成年工ニ付テハ一般ニ九時間半、ソレカラ製絲
業ダケハ三十分餘計ニ見テ十時間、斯ウ云フコトニ依ッテ、
八時間労働ニ對スル只今申上ゲマシタヤウナ除外例ヲ設ケ
テ居リマス、是ガ一ツ、ソレカラ年齡ノ問題デアリマス、是
ハ原則ガ只今申上ゲマシタヤウニ、十八歳ヲ以テ保護職工
デアルト否ラザルトノ區別ハ標準ニゴザイマスガ、日本ハ
特別ニ十六歳ニスル必要ガアッテ特別ノ除外例ヲ設ケタ次
第デアリマス

御話ノ工業ニ使用シ得ル兒童ノ最低年齢第二條ニ「十四歳未満ノ兒童ハ同一ノ家ニ屬スル者ノミヲ使用スル起業ヲ除クノ外、一切ノ公私ノ工業ノ起業又ハ其ノ各分科ニ於テ使用セラレ又ハ労働スルコトヲ得ス」云フコトガアッテ、特ニ日本國ニ對シテ適用ハ「十二歳以上ノ兒童ニシテ尋常小學校ノ教科ヲ修了セシメタル者ハ之ヲ使用スルコトヲ得」ト云フコトハ、特ニ日本國ニ對シテ特別ノ待遇ヲ受ケルコトニナッテ居リマスガ、是等ノ點カラ今度ノ最低年齢法案ガ出テ居ルノデアルト考ヘマスガ、是ハ此前ニモ申述ベマシタガ、十二歳以上ノ尋常小學校ノ教科ヲ修了シタル者ニ付テハ此限ニ在ラズト云フコトハ、是ハ身體ノ上カラ申シマシテモ、又教育ノ上カラ申シマシテモ、今ノ國民教育ヲ延長スルコト云フコトハ、殆ド決テ居ル、隨テ二年間延ビルト云フコトニナレバ、ドウシテモ十二歳カラ十四歳マデノ内ニ、國民教育ヲ卒ルト云フコトハ出來ナクナルコトニナル、サウシテ見レバ斯ウ云フ規定ヲ今入レテ置ク必要ハナイト思ヒマスガ、第二條ニ付テモウ一遍伺ヒマス

○河原田政府委員 第一ノ御問ニ付テハ現行法ハ之ヲ考ヘテアリマス、業務ニ從事スル者ハ本法施行後十五年、大正二十年迄許スト云フコトニナッテ居リマスガ、尙ホ現行法中デモ第八條ノ二項ニ、避クベカラザル事由ニ依リ臨時必要アル場合ニハ、第四條ノ規定ニ拘ラズ、即チ夜業禁止ノ規定ニ拘ラズ、職工ヲ就業セシムルコトヲ得ト云フコトニナッテ居リマスノデ、其點ニ付キマシテハ主義ニ於テ改正案ハ少シモ異動ハナイノデアリマス、唯、一層現行法ヨリ幾ラカ窮屈ニ致シマシタノハ、現行法ハ第五條ハ業務ノ種類ニ依リマシテハ、假令其必要ノ有無ヲ問ハズ大正二十年迄許シテアル、斯ウナッテ居リマスガ、ソレヲ認メナイ、實際必要アル場合ニ限ル、斯ウ云フコトニ致シタ次第デアリマス、第二ノ最低年齢法ニ於テ、十四歳ガ原則デアリマスガ、日本ニ於テハ十二歳以上デアレバ、十四歳未満デアッテモ、學校ヲ卒業シタ者ニ付テハ使ッテモ差支ナイト云フコトハ、是ハ條約案ニモ日本ノ爲ニサウ云フ例外ヲ認メテ居ル次第デアリマス、其理由ハ日本ハマダ今日ノ所ハ義務教育六年デアリマスノデ十二歳若クハ十三歳デ卒業スル、斯ウ云フコトニナッテ居リマスノデ、將來義務教育ガ延長ニデモナリマスレバ、學校ヲ卒業シタ者ト、労働ニ從事シ得ル年齢ニ達シタ者トノ間隔ハ無イノデアリマスガ今日ニ於テハ一年若クハ一年半ト云フモノハ、労働ニモ行ケズ、學校ヲ卒業シテカラブラ／＼シナケレバナラス、是ガ若シ社會施設ガ發達致シマシテ、サウ云フ者ニ對スル教育ナリ、各種ノ施設デモ發達致シマスレバ宜シウゴザイマスケレドモ、唯今ノ所デハブラ／＼遊ンデ居ルコトハ却テ好イ結果ヲ見ナイ、子供ノ爲ニモ好イ

結果ヲ來サスト云フコトカラ考ヘマシテ、保健衛生ノ立場カラハ、成ベク年齢ノ高イ方ガ宜イノデゴザイマセウガ、社會問題其他子供ノ職業ノ問題ト云フヤウナ點、竝ニ産業問題等モ考ヘマシテ、此例外規定ヲ設ケラレタノハ、是ハ已ムヲ得ナイ事デハナイカト考ヘテ居リマス

○中原委員 サウシマス初ノ方ノ問題デアリマスガ、十六歳以上ノ女子ニ對シテ、永久ニ之ヲ許スト云フコトニナッテ居リマスガ、是ハ制限ハアルノデスカ、制限ヲシテ制限の許可ト云フコトニナルノデスナ

○河原田政府委員 左様デゴザイマス、十六歳以上ノ者ニ付テハ行政官廳ノ許可、無論御話ノヤウニサウ云フ制限的デゴザイマス

○鈴木委員長 七日ノ午前十時カラ開會致シマス、本日ハ是ニテ散會致シマス

午後零時四分散會